

## 2021 春闘諸行動 ディーセント・ワーク要求書手交

全印刷局労働組合は、3月2日に中央団体交渉を開催し、「新賃金要求」「年間一時金要求」「ディーセント・ワークの実現をめざす総合改善要求」「ユースネットワーク要求」に関する、「2021春季生活闘争要求書」を提出して以降、ただちに闘争体制を確立し本格的に春闘へと突入しています。昨年に引き続き、コロナ終息の見通しが立たないことから、春闘突入一斉職場集会の代替え策として分会代表者1名を招集し現在の春闘状況及び各種要求・諸行動の認識統一を図るため「春闘突入報告会」を開催してきました。

春闘諸行動として、3月15日の団体交渉時に「ディーセント・ワーク要求書」、3月23日のユースネットワーク対工場集団交渉時に「ユースネットワーク要求書」、3月29日の工芸団体交渉時に「工芸分会ディーセント・ワーク要求書」を手交してきました。

### ディーセント・ワーク要求書手交



### ユースネットワーク要求書手交



### 工芸分会ディーセント・ワーク要求書手交





# 各対工場集団交渉を開催 生の声を幹部へ

3月22日、23日、29日に集団交渉を開催し、対当局・対工場にそれぞれ分会の要求を分会代表者から生の声で訴えてきました。分会代表者より職場の実情を切実に訴え、最後に馬場書記長から当局・工場に誠意ある回答を求めて集団交渉を終了しました。

工場からの回答については、四半期ごとに引き出すことを基本とし、進捗状況については、機関会議等で適宜報告していくこととします。

## 対工場集団交渉の様子



## 対当局集団交渉の様子



## ユースネットワーク対工場集団交渉の様子





## 東京支部人財育成の取り組み

全印刷局労働組合は、第88回定期全国大会の方針に基づき、対話活動を基軸とした「顔の見える運動」を活性化させ、更なる組織強化を図ることを目的に人財育成を進めていくこととしています。

昨年度、東京支部では、新執行委員セミナーをはじめとする学習会及び研修等を実施し、執行委員のスキルアップを図ってきました。組合員を「ありがたい姿」へと導いていくためには引き続き、支部執行委員の育成が必要不可欠です。対話活動を通じて、組合員とのコミュニケーションを密にしながら、自らも自己研鑽を怠らず、常に高いモチベーションを維持できる執行委員を育成しなければなりません。

従って、東京支部は、組合員に信頼され続ける組織をめざし、昨年度の人財育成方針を基本に据え、人財育成を進めていくこととします。

また、近年、支部執行部の若返りが顕著に表れ、経験年数5年未満の者が約半数を占めていることから、今年度は、東京支部全体の底上げを図ることに主眼を置き、若手に見合った研修を実施するため、外部を活用しつつ計画的な育成に努めていくこととします。

### <業務対策部研修>

業務対策部研修とは、工場の業務内容を把握・吸収し、幅広い知見を得るとともに、各分会への説明力を養い対工場との交渉力を高める実践型の研修であり、2021年1月～3月の間、研修生として増田執行委員が研修に臨んできました。また、2021年4月～6月の間、高橋執行委員が本研修に参画していきます。

職場の皆さんのご理解、ご協力のおかげで、月2回ある定例折衝に参画し、出身分会である証券部門のみならず、銀行券部門・官報等部門と幅広い分野について学ぶことが出来ました。

この研修で一番感じたことは、組合員に説明する難しさです。資料内容を分かりやすく伝えるには、私自身が資料の内容を十分に理解することやポイントを踏まえ説明することが大切だと実感しました。また、目標にしていた知識力の向上については、折衝に参画するなかで銀行券部門・情報製品部門の知識が高まったと実感しています。

今後、業務対策部研修で学んだことを自職場及び組合業務に活かしていきたいと思います。3ヶ月間でしたが、大変勉強になりました。



4月～6月の間、研修生として業務対策部に参画します番号分会出身の高橋雄哉です。銀行券・諸証券・官報等について幅広く、学びたいと思っています。

東京工場は多種多様な業務があり、その内容を知り、現状の課題等を把握することで、今後の組合業務に活かすことができると考えています。3ヵ月という短い期間ではありますが、よろしく願いいたします。

